

## JTB グループ労働組合連合会 第1回震災復興ボランティア 活動報告レポート

### 【はじめに】

あの3月11日から瞬く間に時間が経ち、早や4ヶ月が過ぎていきました。  
東日本大震災直後から、地震を体験した一人の日本人として何ができるのか？考え続けてきました。  
そして、なかなかその思いを行動に移すことができず、もどかしい思いをしてきました。  
今回その思いが叶い、被災地での活動の機会を与えていただきました。  
全国の組合員の皆様、この活動を企画してくださったJTBグループ労働組合連合会の皆様、  
そして今回お世話になった方々に、感謝の気持ちを込めて2日間の活動報告をさせていただきます。



【写真提供】井上弘之さん

### 【7月23日石巻へ出発 参加者:57名】

初日は朝8時にJR仙台駅西口のバス駐車場に集合。この日は台風6号の影響もあり、気温はぐっと下って半袖で過ごすには少し肌寒いくらい。前泊で東京を出発するときには、熱中症など暑さ対策ばかりを考えていたが、この涼しさはボランティア活動にはありがたかった。

点呼を受けてバスに乗り込み、いざ石巻へ！

仙台市内はまだ地震の傷跡が残るものの駅周辺を歩く人たちの姿からは、あの大地震が起こった時の状況が想像できないくらい穏やかな空気が流れていた。

車中では、ボランティア活動における心構えや活動についての説明を受け、その後参加メンバーが、所属や名前、今回の活動に対する思いなどを自己紹介しながらの移動となった。

一部道路が陥没したりのコボコボ道だったが、しばらくは穏やかな風景が広がっていたのに、石巻が近づくとつれて左右には津波が残っていた数々の残骸や、被災した家屋の一部、電化製品などがうず高く積み上げられた空き地が見え始め、震災後の報道でたくさん目にした風景ではあるが、想像していた以上にその光景は生々しかった。

この日は土曜日ということもあり被災地へ向かう車が多いためか途中やや渋滞し、予定していたよりも少し遅れて石巻ボランティアセンターに到着。

地元の大学の敷地の一角にボランティアセンターがあり、広い敷地のあちらこちらにボランティア活動をしている方々のテントが張ってあった。こんな小さなテントを拠点に、地道に活動している人がこんなにたくさんいるのだと感動。勇気を分けてもらった。

ボランティアセンターでは先行して受け付けをしていただいたので、下車することなくバスの中でステッカーを受け取り、そのまま活動の地である水明町へ。

今回は、住宅地の土砂(ヘドロ)の除去作業(側溝の掃除)を行うことになった。

#### 【水明町にて】

水明町では、地元の町民会館が拠点となり、そこでスコップやバールなどの道具を借りて現場へ。一見何事も無かったように見えたが、この地も津波が押し寄せ、1m~1.5m程、床上浸水したとのこと。側溝にはそのときの津波で運ばれてきた土砂(ヘドロ)が溜まり、生活排水の流れを堰き止め、気温の上昇によりその土砂(ヘドロ)が悪臭を放っていた。



【写真提供】井上弘之さん

土砂(ヘドロ)の除去と言っても、その作業はかなりの重労働で、まずは重たいコンクリートの蓋を一枚一枚はずしてから、泥をスコップですくい土嚢に詰める。泥を除去したら、又重たい蓋を閉めその上に土嚢を積み上げていく。その作業の繰り返し。重たい蓋を上げスコップで泥をすくい上げるのは主に男性の仕事。女性は土嚢に泥を入れてもらい、袋の口を括って道路脇に運ぶ。女性の中には重いスコップを握って、男性同様に活躍されている方も数人…(凄い！)。

側溝の掃除をするのも初めてであれば、土嚢袋に触れるのも初めて。側溝の脇に袋を構えて泥を入れてもらうのだが、女性が『お願いします』と袋を構えると、スコップを握る男性も『お願いします』と声をかけて泥を袋に入れる。あちらこちらから『お願いします』『ありがとうございました』という言葉が聞こえてくる。自然と湧き上ってくる連帯感(一体感)。その言葉が聞こえてくるたびに、泥にまみれあちこち体が痛いのに、不思議と清々しい気持ちになった。

途中休憩を取りながら2時間ほどで午前中の作業を終え、お昼の休憩。

休憩時には津波が押し寄せた当時の映像などを見せてもらった。

当時の映像は何度見ても心が痛む。

再び午後の作業に入ろうとバスの中で準備をしていた時に、地震が発生！！

突然バスが大きく揺れたので、ドライバーさんが急にエンジンをかけたのかと思ったら地震だった。

岩手県では最大震度5強とのことだったが、石巻周辺は震度3~4、それでも大きな揺れを感じた。

一時は騒然となったが、津波の心配は無いとのことで午後の作業を再開。

皆の連携プレーにより早く作業が進んで、当初予定していた範囲を更に拡大して作業を行った。

一日目の作業は終了。お借りしていた道具を水で洗い流し、返却後に記念撮影。  
帰りは津波の傷跡が生々しく残る地域を經由し、仙台へ。

この4ヶ月、テレビや新聞等の報道で何度も目にしてきた映像が、今、現実のものとして目の前に広がる。防波堤が崩れた港、1階部分がすっぽりと津波にさらわれた家屋、津波が押し寄せたその当時の時刻を刻んだまま止まっている駅舎の時計、なぎ倒された電柱、うずたかく積み上げられたナンバープレートがついたままの乗用車。あまりにも悲惨で、あまりにも残酷な風景・・・  
どうしてこんなことになってしまったのか、ただただ絶句・・・  
暫くは言葉を発することが出来なかった。

【7月24日 再び石巻へ 参加者:50名】

本日も水明町にてヘドロの除去作業。前日とは打って変わって気温は急上昇！！  
予想最高気温は29度、前日と比較すると10度近くも気温が高いため大量の汗をかきながら、暑さとの戦い、一日目の疲労(体の痛み)とも戦いながらの作業は、決して楽なものではなかった。  
そんな状況の中、皆の連携プレーにより前日同様予定よりも作業範囲を拡大し、本日も早目に作業終了。帰路となった。



【写真提供】井上弘之さん

二日間の活動中、地元の皆さんにはあたたかい労いの言葉をかけていただき  
泥にまみれた手を洗う水道水の提供、お茶やジュース、ドリンク剤などを振舞っていただき、本当にありがとうございました。また、人の温かみを感じました。  
地震や津波などで大変な思いをし、きっとこれから先のことにもたくさん不安を抱えていらっしゃるはずなのに、どうしてこんなに人を思い遣ることができるのか・・・  
地元の皆さんのお心遣いに感謝！！本当にありがとうございました。

【最後に・・・】

今回の活動を通して、現地に足を運び実際に活動することの大切さを学びました。  
今の日本を支えている私たちの世代(年齢に関係なく)は、この東北の現実を見ておくべきです。  
そして、東北に足を運び活動をすべきです。そこから本当にたくさんの方が学べると思います。

私たち一人一人の力は小さなものですが、今回の活動を通してその小さくて地道な活動の積み重ねこそが、東北の復興に繋がっていくのだと実感しました。

貴重な経験をする機会を与えていただけたことに感謝すると共に、これからも継続した活動を行なっていく決意をあらたにしました。

これまでボランティアの経験がない方もまずは参加してみてください。

きっと今回の私のように、たくさん学べることがあると思います。

今回一緒させていただいた皆様、活動中は大変お世話になりました。

これから先も皆さんと一緒させていただける機会があることを願いつつ、また、新たにご参加される方々との出会いに期待をしつつ、拙い報告でしたが第1回震災復興ボランティア活動報告レポートとさせていただきます。本当にありがとうございました。

i.JTB 米 佐夜子